

令和7年度 外国語 授業改善推進プラン

大田区立小池小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・教科全体として、基礎・活用ともに目標値と同程度であった。特に「読むこと」の領域は、正答率が高く、基本的な知識・技能を身に付けることができた。
- ・英語の歌を通して身近な語彙の読みに慣れる活動を定期的に取り入れたことで、単語を読み意味を答える設問の正答率が高かった。

(2) 課題

- ・資料を読み取り、場面に合う英単語を書くことや、例文を参考に基本的な表現を用いて英文を書くことに課題がある。第6学年では、資料を読み取り、話す・聞く活動と関係付けて、書く活動を行う必要がある。
- ・「活字体で書かれた文字を識別し、正しく書く」ことは、中学校への接続に向けて、丁寧に指導をしていく必要がある。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率

【◎…目標値を上回った(+5以上) ○…目標値と同程度(±0～+4.9) ▲…目標値を下回った】

	令和7年度結果
第6学年	◎

(2) 分析(観点別)

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・単語や表現を聞き取る力や日常会話を聞き取り、理解する力が付いている。 ・活字体で文字を正しく書く設問に関して、正確さに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・会話全体を聞き取り、状況を推測する設問の正答率が高かった。 ・資料を読み取り、場面に合う英語を判断して書く設問は、課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・正答率が目標値と同程度である。 ・多くの児童が、外国語の学習に主体的に取り組むことができている。

3 授業改善のポイント(観点別)

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ○「聞くこと」「話すこと」の学習内容の定着のため、言語活動の量を確保する。 ○中学年で学習した内容を繰り返し活用して、話す・聞く場面を設定する。 ○活字体の読み書きをする活動を定期的に授業に取り入れ、個々の児童の定着 	<ul style="list-style-type: none"> ○例文を参考に英文を書くことの定着を図るため、聞く・話す活動と書く活動を結び付けて指導する。 ○単語を並び替える活動や、単語を組み合わせて英文を作る活動を取り入れ、段階的に書く指導を行う。 ○資料を読み取り、英語を話 	<ul style="list-style-type: none"> ○児童の身近なものに関連したテーマを扱い、話す活動の意欲を高める。 ○児童が主体的に取り組んでいる英語の歌やチャンツなどを帯活動として行う。ICTを活用して英語の歌を何度も聴いたり、歌ったりする活動を通して、表現

につなげる。	す活動と関連させて書く活動を取り入れる。	や発音に慣れ、自信をもてるようにする。
--------	----------------------	---------------------